

平成19年12月19日

横浜市立旭中学校

校長 佐々木 早苗

ノロウイルスにご注意ください！

ノロウイルスによる感染性胃腸炎は例年寒くなる10月頃から、患者が出始め、1月頃がピークとなりますが、今年はずでに市内の小中学校で、多数のノロウイルス感染がありました。このノロウイルスは非常に感染力が強く、すこしのウイルスでも容易に感染してしまいます。感染をすると、嘔気や激しい嘔吐、下痢、腹痛などの症状が1～3日ほど続きます。今のところノロウイルスに効く薬やワクチンなどはありません。対処療法として嘔吐や下痢などで水分が失われますので、十分に水分補給をする。また、嘔吐した患者には10回以上うがいさせる。

感染者の嘔吐物や排泄物から出たウイルスに触れたり、手を介して食品から口の中へ入り込まれたり、また空気中に漂うウイルスが直接体内に入ることによって二次感染をおこします。嘔吐物を処理する際はマスクや手袋、エプロンなどを着用してウイルスに触れないように処理することが感染予防になります。

ウイルスの感染経路

- ヒトからヒトへ : 感染者の排便後にウイルスが手につく、嘔吐物を処理する際に、消毒しないと雑巾、バケツ、洗い場等を汚染し、汚染された場所に手が触れ、手を介して口に入り感染します。
- 空気感染 : ノロウイルスに汚染されたふん便、嘔吐物が乾燥すると舞い上がり、塵となって空気中に大量のウイルスが漂います。いったん舞い上がるとノロウイルスはなかなか落下せず、長時間空中に漂い、舞い上がったウイルスが直接口に入ります。

予防は手洗いと嘔吐物の迅速な処理です。

手洗い: 登校時、排便の後、食事前にはしっかりと手洗いをする

石けんをよく泡立てて、指の間、つめの先、などを念入りに洗う。

もし、お子様が登校前に腹痛や下痢を訴えている場合は無理をしないで安静にしてください。また、医療機関でノロウイルスによる感染性胃腸炎と診断された場合は必ず、学校に連絡をお願いします。